中学１年　国語科　教材別テスト⑫　模範解答・解説

中学１年　国語　／　「少年の日の思い出」（ヘルマン・ヘッセ）／光村図書『国語１』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語１』の「少年の日の思い出」のページを開いたまま**解答します。この作品は、現在の場面のあとに「客」が少年時代を語り出す**入れ子（枠物語）**の形で書かれています。登場人物の**行動**から**心の動き**を読み取る練習に向いた教材なので、記述問題と、心情の流れをたどる選択問題を中心に組みました。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問／送りがなをふくむ）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（慣用句・語の意味・対義語・類義語）	２点×７＝14点
	三	文法（助詞・助動詞のはたらき）	２点×８＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「少年の日の思い出」の読解（12問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　**助詞の種類**（格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞）と**助動詞の意味**（受け身・自発・推定・様態など）を見分けられるか。

②　この作品が**入れ子（枠物語）**の形で、**大人になった「客」＝「僕」の回想**として語られていることをつかめているか。

③　「僕」のちょう集めへの**情熱**と、**珍しい獲物を得意に思う気持ち**を結びつけて説明できるか。

④　**エーミールの人物像**（模範少年・非の打ちどころがない・冷たい批評家的態度）を言葉にできるか。

⑤　盗みの場面の**心の動きの順序**と、**許しも怒りもない対応**が「僕」を打ちのめした理由、そして**結末でちょうを押しつぶす行為**の意味を読み取れるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	びみょう	⑪	**標本**
②	ねっきょう	⑫	**努力**
③	はんてん	⑬	**印象**
④	えもの	⑭	**実験**
⑤	れいたん	⑮	**批判**
⑥	ゆうわく	⑯	**緊張**
⑦	つくろう	⑰	**盗む**
⑧	さまたげる	⑱	**許す**
⑨	うらやむ	⑲	**謝る**
⑩	さぐる	⑳	**後悔**

小計　20点

【注意したい字】

③「斑点」は「はんてん」。「反点」「班点」と書く誤りが多い（「班」は班長の班）。④「獲物」は「かくぶつ」ではなく**えもの**。⑤「冷淡」の「淡」はさんずい。「炎」の部分を「災」などと書かない。⑦⑧⑨⑩は**送りがなまで必要**。⑦「繕う」を「ぜんう」と読む誤りに注意。⑪「標本」の「標」は**木へん**に「票」。「漂」「慄」と混同しない。⑫「努力」の「努」は「奴」＋「力」で、「怒」と書きまちがえない。⑬「印象」の「象」は、動物の「ぞう」の字。⑭「実験」の「験」は**うまへん**。「検」「険」との混同に注意。⑯「緊張」の「緊」は「臣」「又」「糸」を組み合わせた形。「堅」と混同しない。⑰⑱⑲も**送りがなまで必要**で、「盗む→盗すむ」「許す→許るす」「謝る→謝まる」は×。⑳「後悔」の「悔」はりっしんべん。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	「非の打ちどころがない」＝欠点が一つもなく完全である。エーミールの人物像を表すときに使われる言い方。「非」は「あやまち・欠点」の意味。
(2)	**イ**	「息をのむ」＝おどろきや感動で、はっと息を止める。美しいちょうを目にした場面の心の動きに重なる表現。アは「息が切れる」。
(3)	**イ**	「〜に目がない」＝大好きで夢中になる。例「あまい物に目がない」。「目がない」＝見る力がない、ではない。
(4)	**イ**	「丹念」＝心をこめてていねいに。「丹念に調べる」「丹念に仕上げる」。反対はア「ぞんざい・手早く」。
(5)	**反対**	賛成 ⇔ **反対**。「否定」「拒否」も意味は近いが、漢字二字の**対義語**としては「反対」が正答。
(6)	**ア**	「模範」＝見習うべき**手本**。イ「模型」は字が似ているだけで意味がちがう。「模範生」は「手本になる生徒」。
(7)	**ア**	「口をつぐむ」＝口を閉じて何も言わない。イ「口がうまい」＝話が上手、ウ「口をはさむ」＝横から話に加わる、エ「口が軽い」＝秘密を言ってしまう。

小計　14点

三　助詞・助動詞のはたらき　（2点×8＝16点）

番号	――線部	解答	解説（見分け方）
(1)	**を**	**格助詞**	主に**体言**につき、あとの語との関係（ここでは対象）を示す。「が・の・を・に・へ・と・より・から・で・や」の十語。
(2)	**が**	**接続助詞**	**活用する語（用言）**のあとについて、前後を逆接でつなぐ。同じ「が」でも、「風<u>が</u>ふく」のように**主語**を示す「が」は格助詞なので注意。
(3)	**まで**	**副助詞**	いろいろな語につき、**意味をそえる**（ここでは「〜さえも」という強調）。「は・も・こそ・さえ・だけ・ばかり・まで・しか」など。
(4)	**よ**	**終助詞**	**文末**につき、気持ちや態度（念おし・呼びかけ・疑問など）を表す。「か・な・ね・よ・ぞ・さ・わ」など。
(5)	**れる**	**受け身**	「**〜に…される**」の形。動作をする相手（妹に）が示せるかどうかが決め手。
(6)	**れる**	**自発**	「自然に〜される」の意味。「**自然に**」「**ひとりでに**」**を補える**かで判断する。思い出す・感じる・しのばれるなど、心の働きを表す語につきやすい。
(7)	**らしい**	**推定**	何かの**根拠をもとに推し量る**。「どうやら」を補える。人から聞いた話なら「〜そうだ（伝聞）」になる。

(8)	**そうだ**	**様態**	「今にも〜しそうだ」と**見た様子から判断**する用法。**動詞の連用形**につくのが様態、**言い切りの形（終止形）**につくのが伝聞（例「降るそうだ」）。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【助詞・助動詞を見分けるコツ】

①　助詞は**活用しない**付属語、助動詞は**活用する**付属語。まずここで分ける。②　同じ「が」でも、**体言につけば格助詞／用言につけば接続助詞**。③「れる・られる」は**受け身・自発・可能・尊敬**の四つ。「〜に」が補えれば受け身、「自然に」が補えれば自発、「〜できる」に言いかえられれば可能、えらい人の動作なら尊敬。④「そうだ」は**直前の形**で決まる（連用形＝様態／終止形＝伝聞）。

四　「少年の日の思い出」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**ウ**	現在の場面（「私」と「客」）→「客」が語り出す少年時代、という**入れ子（枠物語）**の構成。物語の中に物語が入っている形。ア「私」が自分の体験を語る、ではない点に注意。
(2) 2 点	**イ**	後半を語るのは**「客」**であり、その「客」が少年時代の自分を「僕」と呼んで回想している。語り手が交代することが、この作品の大きな特徴。
(3) 4 点	**イ**	ちょう集めは「僕」にとって、時間も食事も忘れるほどの**情熱**の対象だった。ア「競争心だけ」、ウ「しかたなく」、エ「お金」はいずれも本文と合わない。
(4) 6 点	**（例）珍しい青いコムラサキをとらえて、得意な気持ちになったから。（29字）**	「**珍しい（青い）ちょうをとらえた**」（３点）＋「**得意になった／自慢したくなった／見せたくなった**」（３点）の二点で採点。 「収集が好きだったから」など**情熱の強さだけ**を書いたものは２点まで。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(5) 4 点	**イ**	エーミールは**模範少年**として描かれ、非の打ちどころがない。しかもその目は**冷たい批評家**のようで、「僕」の収集を値踏みするように見る。これが後半の対応につながる。
(6) 4 点	**ア**	「僕」の感情は一**方向ではない**。みごとな収集を認めて感心する気持ちと、それゆえにねたみ憎む気持ちが同時にある。この**相反する感情**が読めているかがポイント。
(7) 4 点	**イ**	「**見る→ひかれる→誘惑→実行**」という流れ。はじめから盗むつもりだったのではなく、**気づかないうちに手が出てしまう**ところが、この場面の恐ろしさ。エ「腹が立つ→こわしてやろうと考える」は結末の行為と混同した誤り。

四　「少年の日の思い出」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(8) 6 点	**（例）自分が盗みをしたという罪の意識にたえられなくなったため。（28字）**	「盗みをしてしまった」（３点）＋「**罪の意識・後ろめたさにたえられない**」（３点）の二点で採点。 「見つかるのがこわかったため」だけのものは３点。「ちょうがこわれたため」は因果が逆なので０点。「**～ため。**」**で結んでいないものは－１点**。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(9) 6 点	**（例）怒られるより、人間として軽蔑されたことがつらかったから。（28字）**	「**怒りもせず、許しもしなかった**」（３点）＋「**人間として軽蔑された／見下されたことがつらい**」（３点）の二点で採点。 「ひどいことを言われたから」だけのものは２点。**しかられるほうがまだ救われた**のに、エーミールは「僕」を**相手にする価値のない人間**として片づけた――ここに気づけているかが分かれ目。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(10) 2 点	**イ**	母は「僕」をののしらず、**自分の口であやまりに行かせた**。責任は自分で取らせるという対応であり、「僕」を信じて向き合わせる愛情の形。
(11) 4 点	**ウ**	この作品の**主題**に関わる問い。一度こわれたものは償えないと知った「僕」は、**自分の情熱そのものを自分の手で終わらせる**。イ「うさをはらした」のような単純な怒りではなく、**自分への罰・訣別**であることを押さえる。
(12) 4 点	**ア・イ・エ・オ**	ウ…エーミールはどならず、**冷たく静かに**対応したので×。これが最大の引っかけ。 オ…エーミールは「僕」を許さなかった（○）。 **ア・イ・エ・オの四つそろって４点（完答）**。一つでも足りない、または余分な記号があれば０点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ)】

1. この作品は**入れ子（枠物語)**。前半の語り手「私」と、後半の語り手「客」＝「僕」を混同しないこと。
2. 「客」は**大人になった人物**であり、少年時代の自分をふり返って語っている。「僕」は**回想の中の自分**。
3. 「僕」の情熱は本物だが、同時に**エーミールの評価に敏感**だった（感心しつつ、ねたんで憎んでいた)。この二面性が後の行動の伏線になる。
4. エーミールは**意地悪な少年ではなく、非の打ちどころのない模範少年**。だからこそ「僕」にとってやりにくい相手になる。
5. 盗む場面は**計画的な悪事ではない**。「見る→ひかれる→誘惑→実行→罪の意識」という流れを順にたどること。
6. ちょうの羽がつぶれたのは、**あわてて隠したことによる偶然**。わざとこわしたのではない。
7. エーミールの対応は「**怒らない・許さない・軽蔑する**」の三点セット。怒られなかったことがかえって「僕」を追いつめる。最大のポイント。
8. 結末の行為は**やつあたりではなく、自分への罰と、ちょう集めへの訣別**。気持ちを問う記述では、行動をなぞるだけでは0点。「〜という気持ち。」「〜ため。」の形で結ぶこと。